

## 令和7年度 第2回越谷市立小中学校学区審議会会議録

- 1 開催日 令和7年11月21日(金)
- 2 会場 中央市民会館 5階 第4～6会議室
- 3 開閉会 開会 午後3時00分  
閉会 午後4時40分
- 4 出席委員 深井 晃 委員 杉本 隆昭 委員 萩原 弘之 委員  
榊原 久隆 委員 滝本 守 委員 和田 昌子 委員  
後藤 桂子 委員 鈴木 実 委員 高山 水子 委員  
阿達 富美子 委員 小池 美佳 委員 馬場 れい子 委員  
石塚 忠男 委員 深野 弘 委員 内田 泰代 委員  
吉井 仁実 委員 星 薫 委員 五味田 真紀子 委員
- 5 欠席委員 浅井 亜由美 委員 加瀬 朱子 委員
- 6 事務局出席者  
学校教育部長 磯山 貴則  
学校教育部副参事兼学務課長兼小中一貫校整備室長 菊池 邦隆  
学校教育部副参事兼給食課長 小澤 正和  
学校管理課調整幹 杉田 直也  
指導課長 千嶋 淳一  
教育センター所長 田嶋 栄蔵  
教育センター主幹 和泉 雄太  
学務課学事担当主幹 武内 英樹  
学務課学事担当主任 黒沢 朱莉  
学務課学事担当主事 青谷 奈津季
- 7 報告事項  
(1) 令和7年度第1回越谷市立小中学校学区審議会会議録について  
(2) 小中一貫教育の推進について
- 8 協議事項  
(1) 通学区域制度の弾力的運用について  
(2) 今後のスケジュール(案)について

### 【令和7年度第2回越谷市立小中学校学区審議会会議録要旨】

- 1 開 会
- 2 報告事項  
審議会条例第5条第2項の規定により、星会長が議長となり議事を進行する。  
(1) 令和7年度第1回越谷市立小中学校学区審議会会議録について  
事務局より前回の審議会会議録について説明を行い、原文のまま承認された。  
(2) 小中一貫教育の推進について  
事務局より第2期小中一貫教育の取組みに関する成果と課題や、第3期小中一貫教育の方向性について報告を行なった。  
議 長 委員に質疑・意見を求める。  
(質疑・意見)  
委 員 「生きる力をはぐくむ越谷教育ブックレット」にある「自治的な集団にするため

に」の表現について、「自治的」という言葉は教育課程の特別活動での用語であり、「結論を生徒に任す」という意味。「自発的」と「自治的」は異なる。全ての教育活動を「自治的」に進めるのは難しいと考えるが、この部分について分かるように説明してほしい。

小中の連携については、南ブロックで進んでいるものを市内に広げるのは素晴らしい取り組みだと思う。不登校対策について、那須塩原では特別活動を小中一貫で行ったところ不登校が減少するとともに学力も上昇したとのこと。教科も大事だが土壌として大切なのが特別活動。小中の連携を教科以上にとってもらいたい。特別活動への力の入れ方、時間割の組み方も学級担任によって分かれやすいように感じる。こうした意見が出たことを校長会等で共有し今後の教育活動計画の参考にしてほしい。

事務局 本市の小中一貫教育は学習指導要領に基づいた質の高い教育活動を念頭におき、子どもたちの生きる力育成を目指し、来年度から第3期の取り組みを進めてまいります。ご指摘のとおり非認知能力の向上は重要と考えておりますので、引き続き各学校と連携をとりながら進めてまいります。

事務局 第3期の取り組みは校長先生方や教育委員の方々の意見を踏まえながら進めているところですが、改めて学区審議会や地域準備会のご意見も踏まえながら取り組んでまいります。特別活動の大切さは認識しているところですが、学校間や担任間での差異も推察されます。不登校については、本市小中学校は全国・県の平均を下回っており、学びの場の提供やICT活用、スクールカウンセラー等専門職との連携など、多様な支援を実施しております。特別活動の目的にも合致する、生徒指導提要の4つのポイント（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）の視点も取り入れながら取り組んでいるところです。いただいたご意見を踏まえながら子どもたちがより良い学校生活を送れるよう取り組んでまいります。

委員 一貫教育の課題が、「学校生活充実感の高揚」だけでよいのか。率直な質問で、アンケートの他の質問項目で課題が見えたものはないのか。

事務局 第2期では学力の向上、自己肯定感の高揚、学校生活充実感の高揚の3つを共通の狙いとして掲げてきましたので、その中で数値的にも学校生活充実感の高揚についてまだまだ取り組みを進めていく必要があるとして示しております。

事務局 補足ですが、市としての課題は様々な分野でございますが、これから色々な会議にかけて正式に方針を決定するため、ざっくりした形でお示ししています。中学校区ごと、また学校ごとに課題も違いますので、中学校区の校長方のリーダーシップのもと取り組みを行っています。

委員 自己肯定感の高揚のグラフでは、右肩下がりがだったのを持ち直していたという全国の動きと越谷市の動きが同じだが、要因について分析しているか。

事務局 コロナで教育活動が制限されたことが下がった要因であり、制限がなくなってきたところ、また本市としても小中連携した取り組みをしてきた成果が出ていると捉えております。

委員 コロナ以前もずっと下がっているの、コロナだけではないかと思えます。

### 3 協議事項

#### (1) 通学区域制度の弾力的運用について

事務局 資料に基づいて説明を行い、「指定学校変更制度」や「中学校選択制」について今

後の取り組みや方向性について審議をお願いした。

議長 委員に質疑・意見を求める。

(質疑・意見)

委員 中学校選択制で毎年のように中央中と北中を選択する人が多い理由はあるのか。

事務局 中学校区と小学校区が一致していないことで、友達関係などを含め学区外から選択されるご家庭が多いことが理由と思われる。

委員 中学校選択制の課題として小中一貫教育の推進が難しくなると思うが、先ほどの小中一貫教育の話とは真逆ではないのか。

事務局 中学校選択制は平成16年の学区審議会で「現在の通学区域制度を維持していくことを基本としながら、他の学校への通学を希望する就学予定者や保護者の意向にできるだけ沿って就学する中学校を指定することが望ましい」との答申を受けて現在に至っています。本市の小中一貫教育と中学校選択制は、地域の教育基盤強化とこどもの多様なニーズへの対応について相互に補完し合う関係にあり、両立して取り組んでいけると考えております。

議長 小学校区と中学校区が完全一致していないからこそ学区外の中学校を希望する方がいるのが現状と思われる。小中一貫教育推進のためには小中学校の一致を目指したい。

委員 抽選では、一つの地域(町内、隣近所)で中学校が別々になることもありえると思うが、その状態について市民の反応はどうか。町内で学校が違くと、コミュニティ活動の連携が難しくなる問題がある。

事務局 中学校選択制の歴史も長くなってきて、抽選会にはそれなりの覚悟をして臨んでいらっしゃると思いますが、結果を見て残念に思うお子さん、保護者の方がいるのは事実です。また地域の方のご意見として中学生が自分たちの自治会の学区ではない中学校に行くことに寂しい思いがあることも認識しています。地域と連携した防災関係訓練や、地域行事への参加を各学校でも推奨しているかと思えます。

委員 通学区域制度の弾力的運用という点、現在の通学区域制度はこのままだと思うが、通学区域そのものを見直すことはあるか。

事務局 今回は通学区域制度の弾力的運用を議題としていますが、前回までの審議会で、通学区域の地域との整合、小中学校区の整合といったテーマでご審議いただいたところです。通学区域制度についてご審議いただく審議会ですので、学区の改編も含めご意見頂戴できればと思います。

委員 蒲生4丁目が、蒲生地区なのに川柳小学区、光陽中学区であることは整合がとれていないのではと思う。令和9年に小中一貫が南ブロックで始まるので、学園の開校と同時に学区も変えられるようお願いしたい。

委員 蒲生4丁目はもともと伊原、川柳の住所で、住居表示の関係で変わった。学区に違和感をもつ人もいると思うが、旧来から住んでいる方は伊原の人が多く、地域性が難しくなっている。

議長 事情も色々あるので、ご意見も踏まえつつ、変更する場合はそれなりの合理的配慮をして案を作成することになると思う。

(2) 今後のスケジュール(案)について

事務局 今後のスケジュール(案)について事務局案を説明した。

議長 委員に質疑・意見を求める。

(質疑・意見なし)

以上